



校長室だより

令和5年度

11月2日

NO. 30

やってみなきゃわからない 自分で「体験」すること

秦梨小に来て、初めて見る植物がありました。初夏、畑から一本の茎を伸ばす、野菜というよりむしろ木に近いその植物の正体は「こんにやく芋」でした。1メートル近く伸びた茎の下には、大きなこんにやく芋ができていました。「大きな畝を作って、植えてくれたで、上手にできた」田の先生に教えてもらい上手に育ちましたが、実は育てるのも難しいと言います。さらに、食べられるようになるのに3年もかかるそうです。秦梨ではみんな知っていても、まだまだ知らないことがたくさんあることを知りました。

10月25日には、3年生が、そのこんにやく芋から「こんにやく」を作りました。こんにやく芋は、そのままでは食べられません。すりおろしてゆでて石灰を混ぜると、手間のかかるものです。しかも、その時間や分量なども適切でないと、おいしいこんにやくはできません。それを考えると、1000年もの昔から作り方が伝わり、今もこうしておいしいこんにやくが食べられるということは、まさに衝撃であり奇跡だと感じました。



同日、美合小で、美川・河合ブロックの「子どもと親の集い交流会」が行われました。秦梨からは一人参加し、美川・河合ブロックあわせて100名以上いる前で、立派に秦梨小学校の紹介と、みんなが楽しめるゲームを披露してくれました。

大勢の知らない人の前で、しかも一人で話をすることは大人でも緊張します。それを一人でやり遂げたことは、本当に立派で、貴重な経験で、きっと「自信」として自分の財産になったことと思います。

27日には「ふれあいの会」がありました。学区の長明クラブの方々から、グラウンドゴルフ、お手玉づくり、紙飛行機、竹馬、ミニ生け花を教えてもらいました。どれも見ただけではできません。実際に試して、その場でどうしたらいいか考えて、また試す。まさにこれこそが、課題解決です。できるようになるためにどうしたらよいか考えて、試してみる、それが今の時代を生きるためにも、必要な力です。



「体験」ほど確かなものはありません。こんにやく作りやいろいろな遊びも、今やインターネットを見れば分かりますし、様々な原稿もコンピューターが作ってくれる時代です。しかし、知っているだけで、できるものではありません。そこには昔の人の知恵や、準備や挑戦など、「体験」が必要になります。そしてそれこそが、いちばん確かな力になります。人は見たり聞いたりしただけですべて分かったような気になりますが、実際には自分でやってみてこそ、本当の、確かな力が身につきます。

秦梨小では「ふるさと学習」で、様々な体験を行います。そうした経験が将来、すべて役に立つとは限りません。けれど、自分で、「あの時、ああやって考えた」「だれだれが教えてくれた」「こうやってやってみた」、そして、自分から「体験」した経験は、問題を解決するヒントや力になり、子供たちにとって確かな「生きる力」となります。